PRESS RELEASE
味の素株式会社 グローバルコミュニケーション部
〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目7番1号

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO

2026年11月17日

～毎日の食事の栄養評価から、食事提案・栄養改善への活用を目指す～
味の素㈱、栄養プロファイリングシステムのスコアとメタボ・ロコモ発症リスクとの関連を確認

第47回日本肥満学会学術集会および第13回日本サルコペニア・フレイル学会大会で発表

味の素株式会社(社長：中村 茂雄　本社：東京都中央区)は、国立大学法人弘前大学(学長：福田 眞作)との共同研究講座での研究を通じて、1日の食事全体の栄養の質を科学的に評価する独自の栄養プロファイリングシステム「ANPS-Day」※1のスコアが高いほど、メタボリックシンドローム(メタボ)およびロコモティブシンドローム（ロコモ)※2の3年以内の新規発症リスクが低いという関連を明らかにしました。この結果は、ANPS-Dayが日々の食事の栄養の質を評価するだけでなく、生活者の健康的な食生活の実践や栄養改善を支援する指標として活用できる可能性を示唆するものであり、健康寿命の延伸への貢献が期待されます。

近年、食とライフスタイルに起因する健康課題が世界で増大しています。こうした課題の解決には、日々の食生活における栄養バランスの改善が重要とされ、食品や食事の栄養価値を科学的に評価する栄養プロファイリングシステム(NPS)の開発・活用が世界的に進んでいます。味の素グループは、独自のNPSとして製品を評価するANPS-Product、料理(1品)を評価するANPS-Dish、食事を評価するANPS-Meal、さらに1日の食事全体を評価するANPS-Dayを開発してきました。ANPS-Dayは、1日の食事全体の栄養の質をスコア化し、スコアが高いほど栄養面で望ましいことを示します。これまでにANPS-Dayのスコアと尿中ナトリウム・カリウム比(Na/K比)との関連を国際学術誌で発表するなど、科学的妥当性の検証を進めてきました。一方、ANPS-Dayのスコアと将来の健康リスクとの関係は明らかになっていませんでした。

本研究では、当社が2020年から連携を進める弘前大学のCOI-NEXT拠点※3「岩木健康増進プロジェクト(大規模住民合同健診)」で得られたデータを活用して、ANPS-Dayスコアと、健康寿命に影響する健康課題として注目されるメタボとロコモの将来の発症リスクとの関連を検証しました※4。メタボでは2015年および2016年の健診に参加した成人890名、ロコモでは2015年から2019年の健診に参加した成人848名を対象に解析したところ、いずれもANPS-Dayスコアが高いほど、3年以内の新規発症リスクが有意に低いことが確認されました※4。さらに、機械学習を用いた解析から、発症リスクの低さと関連するANPS-Dayスコアとして、メタボでは78点以上、ロコモでは74点以上という目標点の目安が示されました。

以上の結果から、ANPS-Dayは1日の食事全体の栄養の質を評価するだけでなく、将来の健康課題を見据え、生活者一人ひとりの食事内容に応じた具体的な提案を行うなど、より実践的な栄養改善の支援に活用できる可能性が示唆されました。なお、当社はこれらの研究成果を、第47回日本肥満学会学術集会および第13回日本サルコペニア・フレイル学会大会で報告しました。

味の素グループは、「妥協なき栄養」を基本姿勢に、ANPSの知見を国内外に発信するとともに、栄養価値の高い製品・サービスの開発・提供を推進します。これらの取り組みを通じて、「アミノサイエンス®で人・社会・地球のWell-beingに貢献する」という志(パーパス)のもと、世界中の人々の健康的な食生活を支え、健康寿命の延伸に貢献することを目指します。

※1)ANPSは、「The Ajinomoto Group Nutrient Profiling System」の略称です。
※2)メタボリックシンドローム(メタボ)は、内臓脂肪の蓄積を基盤として、高血糖、脂質代謝異常、高血圧など、心血管疾患の危険因子が重積した状態を指します（「肥満症診療ガイドライン2022」)。また、ロコモティブシンドローム(ロコモ)は、運動器の障害によって、立つ、歩くなどの身体能力(移動機能)が低下した状態を指します(「ロコモティブシンドローム診療ガイド2021」)。

※3)弘前大学では、2022年10月から文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の拠点としてプロジェクトを展開しています。健康を基軸に、若者が地域で働きたいと思える成長産業として魅力的なヘルスケア産業を創出することによって、地域の人々を健康にしながら経済発展し、全世代の人々が生きがいをもって働き続けることができ、心身共にQOLの高い状態での健康寿命を延伸する、Well-beingな地域社会モデルの実現を目指しています。弘前大学COI拠点の成果を発展的に承継し、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指すプロジェクトです。

※4)食事摂取量の把握には、簡易型自記式食事歴法質問票(BDHQ)を使用しました。

参　考

2026年6月30日プレスリリース
味の素㈱、1日の食事を評価する栄養プロファイリングシステムを構築
https://news.ajinomoto.co.jp/2026/06/20260630.html

2025年5月27日プレスリリース
味の素グループ、日本初の食事用栄養プロファイリングシステムを開発
https://news.ajinomoto.co.jp/2025/05/20250527.html

2021年12月24日プレスリリース
味の素グループ、メニュー用栄養プロファイリングシステムを開発
https://news.ajinomoto.co.jp/2021/12/20211224-01.html

2020年5月14日プレスリリース
味の素グループ、栄養プロファイリングシステム(Nutrient Profiling System)を導入
https://news.ajinomoto.co.jp/2020/05/20200514.html

2020年4月16日プレスリリース
弘前大学と味の素㈱、「デジタルニュートリション学講座」を開設
https://news.ajinomoto.co.jp/2025/03/2020_04_16.pdf

味の素株式会社・味の素グループの詳細：味の素株式会社 ～Eat Well, Live Well.～
本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先：Pr_media